協議事項１

（即付議議案第２４号）

１　議案名

県立学びの多様化学校の新設に伴う新設中学校の校名決定について

２　提案理由

令和９年４月に開校予定の県立学びの多様化学校の校名を決定する必要があるため

３　関係法令

学校教育法　第２条第１項

地方自治法　第２４４条の２第１項

いじめ・不登校対策課

県立学びの多様化学校の新設に伴う新設中学校の校名決定について

１　校名募集について

期　　間：　令和８年５月１日から５月３１日まで（３１日間）

応募状況：　６６２件　　５４６作品

２　校名候補選推薦リストの作成について

応募作品一覧表より、校名候補選定員がそれぞれ３つの校名候補を推薦し、「校名候補推薦リスト」を作成

〈校名候補推薦リスト作品数〉　２３作品

３　第２回校名候補選定委員会による校名候補の選定

（１）主な審議内容

次の意見をもとに、校名候補を絞り込んだ

・よく似た表現を整理し、分かりやすいものとする

・地域の特色や郷土の歴史・文化があらわれた校名とする

・学びの多様化学校の設置趣旨や教育理念にふさわしい校名とする

・なるべく、他に同じ名前が用いられていないものにする

（２）校名候補選定結果　３点

徳島県立　**鳴門（なると）いろどり**　中学校

徳島県立　**潮彩（しおさい）**　中学校

徳島県立　**こうのとり**　中学校

「校名候補選定委員会」において選定した校名候補及び選定理由

「徳島県立　**鳴門（なると）いろどり**　中学校」
・　生徒の豊かな個性や多様性を大切にし、誰もが自分らしく成長して人生を彩ることができる学校にしたいという願いがこめられている。また、「鳴門」の地名を入れることで、地域からも親しまれる校名になるのではないか。 ・　「いろどり」の言葉に表れるように、一人一人の個性やペースが尊重され、自分らしさを発揮できる学校であってほしい。
「徳島県立　**潮彩（しおさい）**　中学校」
・　寄せては返す波の音が途切れず重なり合う、鳴門の「潮騒」。その「騒」を「彩」に変えることで、子どもたちがそれぞれの明るく温かい色を発揮し、社会へ、そして自分自身の豊かな人生へと彩りを添え続けてほしいという想いが込められている。 ・　海や渦潮を連想させる「潮」の言葉を用いると、より地域に根ざした名称になるのではないか。
「徳島県立　**こうのとり**　中学校」
・　鳴門の地で地域に守られながら巣立つコウノトリの姿に、周囲の支援を受けて自分らしく学び、未来へ羽ばたく生徒の姿を重ね合わせている。また、「幸せをもたらす」とされるコウノトリにちなんで生徒や教職員の幸せを願い、次世代を育む学び舎をイメージしている。 ・　新たな学び舎で成長し、未来へ向かって力強く羽ばたいてほしい。

（参考資料１）

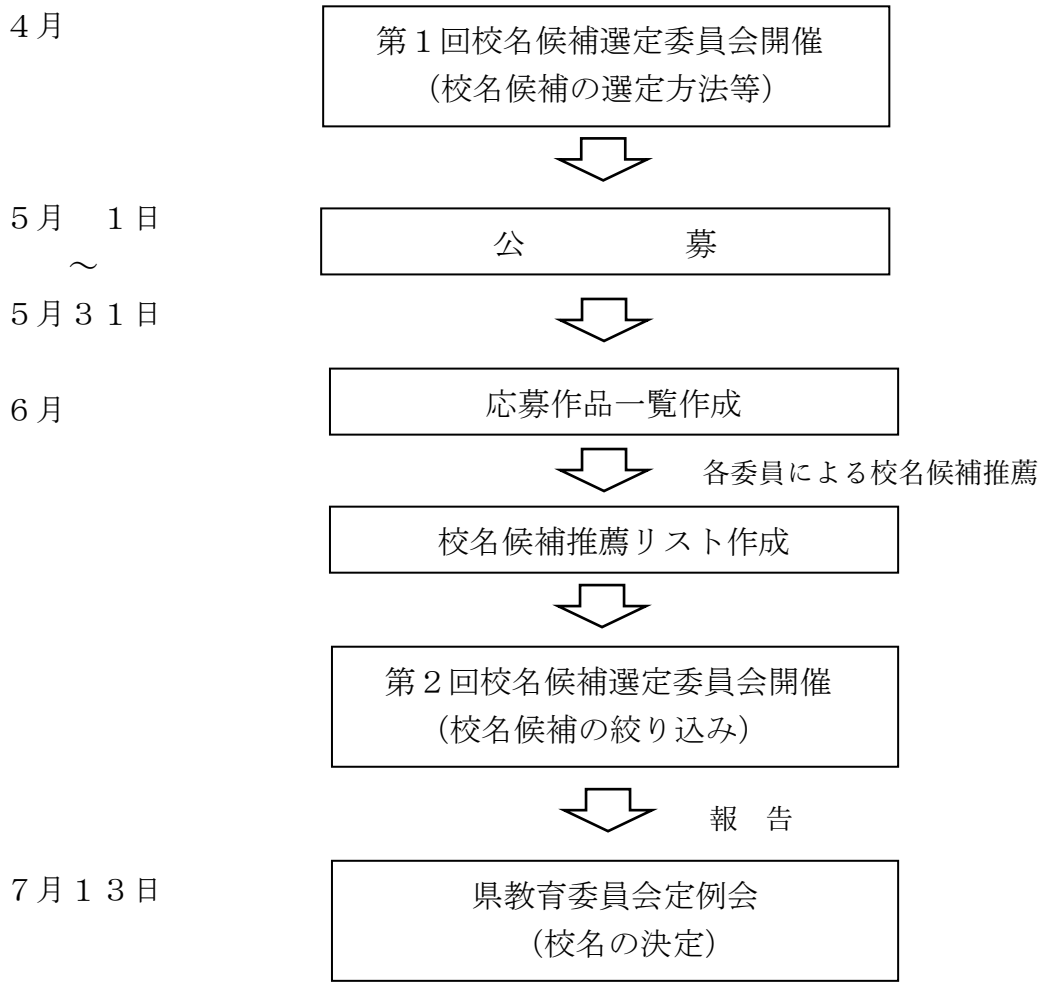
県立学びの多様化学校の新設に伴う新設中学校の校名決定方法について

１　選定・決定方法

（１）　校名を広く公募し、応募作品の中から校名候補選定員会委員の推薦により、校名候補推薦リストを作成する。

（２）　校名候補選定員会において、校名候補推薦リストをもとに、候補を絞り込み、その中から県教育委員会が決定する。

２　スケジュール



〈参考〉校名候補選定委員会委員

徳島県市町村教育委員会長
鳴門市教育委員会教育長
鳴門教育大学臨床教育学研究開発機構長
鳴門市撫養小学校長
阿南市立羽ノ浦中学校長
徳島中央高等学校通信制課程教諭
徳島県 PTA 連合会長
四国まなび未来ネットワーク研究所代表
なかむらクリニック院長
徳島県スクールカウンセラー
徳島県教育委員会教育次長
徳島県教育委員会いじめ・不登校対策課長

（参考資料２）

県立学びの多様化学校の新設に伴う新設中学校校名募集要領（一部抜粋）

（１）趣旨

県立学びの多様化学校を新設し、令和９年４月に開校する新設中学校（以下「新中学校」という。）の校名を公募する。

（２）主催

徳島県教育委員会

（３）新中学校について

不登校の生徒が、学校をともに創り、自分らしく学ぶことができる、そんな学びの多様化学校を目指します。

①生徒の個性を尊重しながら、自分らしく成長できる学校
②生徒にあった方法で学べる学校
③生徒同士や大人と対話を重ねながら、学習活動や学校行事を考えたり、ルールを決めたりする学校
④徳島の豊かな資源を活かしながら社会で生きる力と新しい価値を創造する力を育む学校

（４）校名応募にあたっての視点

①生徒や職員が誇りと希望を持てる校名であること
②県民に親しまれ、愛される校名であること
③上記「（３）新中学校について」の内容にあった校名であること